

2018年3月期 第3四半期 決算説明会資料

2018年1月30日@ベルサール八重洲
7741.T HOYA株式会社 [IFRS]

ハイライト

+10%

成長ドライバーであるライフケア事業が、M&Aとオーガニック成長の両輪により、ニケタ成長を達成

+5%

情報・通信事業は、3.5 inch HDD製品が立ち上がり始めたことなどにより、成長を維持

**1,368
億円**

以上により、過去最高の四半期売上を達成

※成長率は為替影響除きの数値

1. 決算概要 [代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 今後の見通し

5. 質疑応答

業績概況

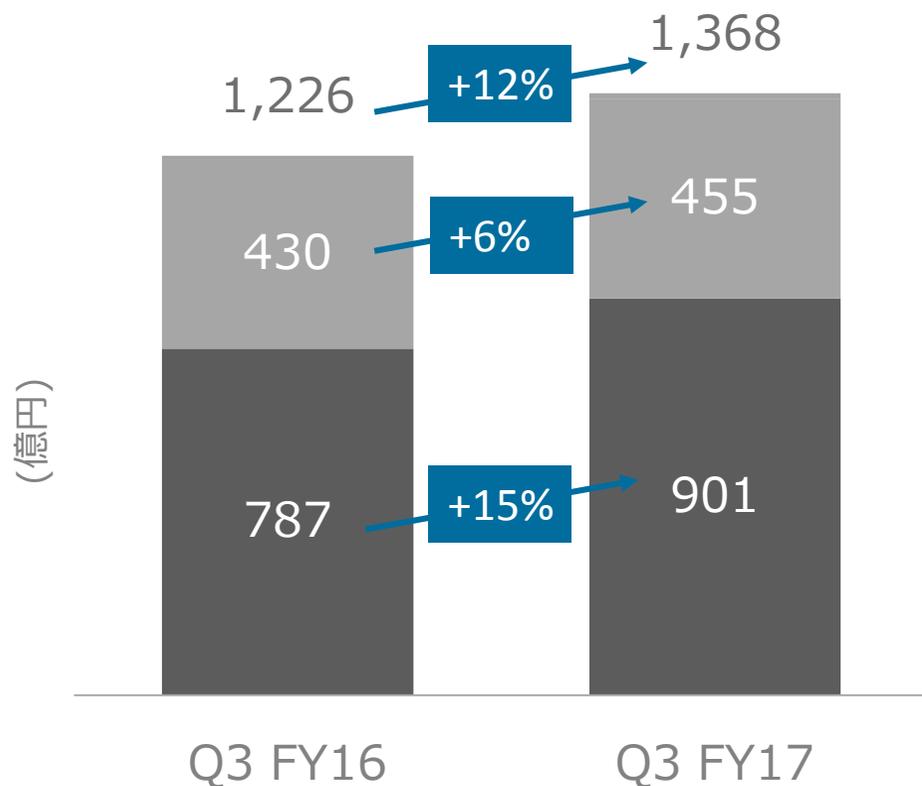
(億円)	Q3 FY16	Q3 FY17	増減	増減率
売上収益	1,226	1,368	+142	+12%
税引前 四半期利益	325	347	+22	+7%
四半期利益	251	277	+26	+11%
[参考]通常の営業 活動からの利益	282	332	+50	+18%

四半期として過去最高の売上を達成

業績内訳

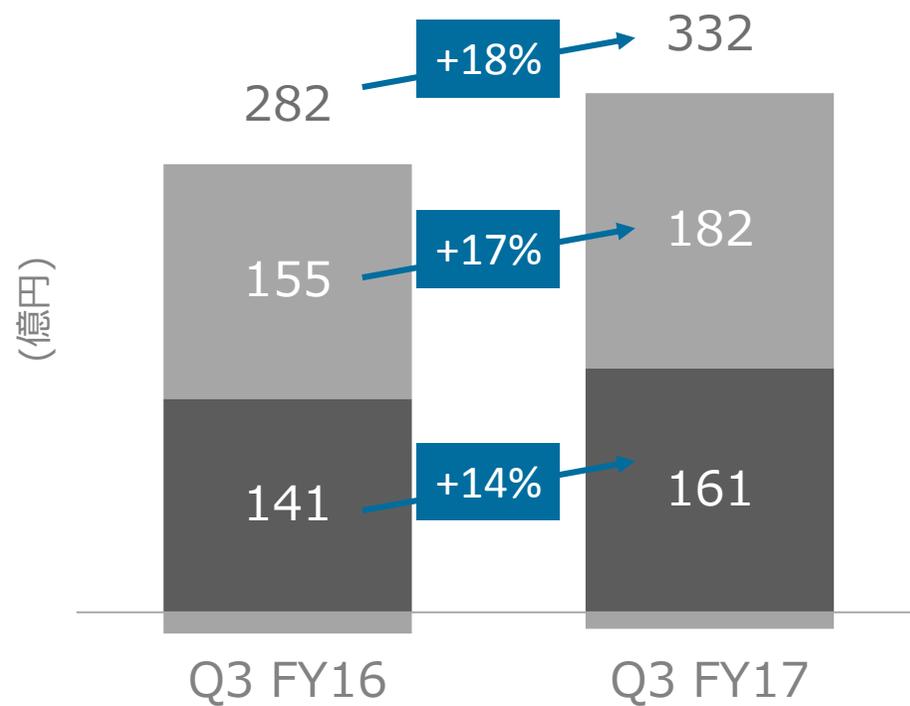
売上収益

■ ライフケア ■ 情報・通信



[参考]通常の営業活動からの利益

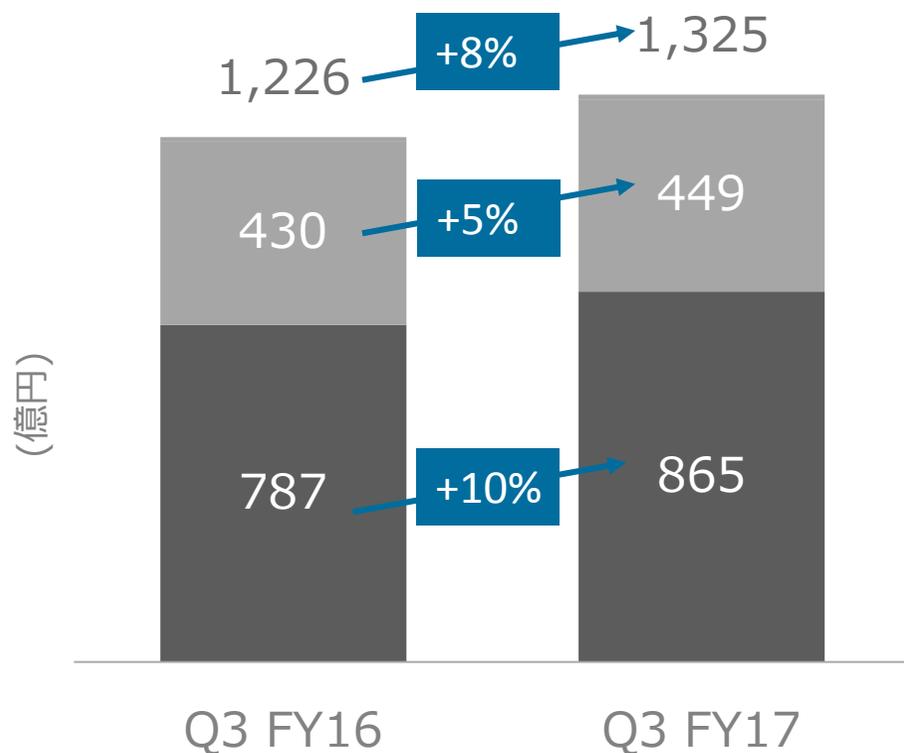
■ ライフケア ■ 情報・通信



為替影響を除く実質増減

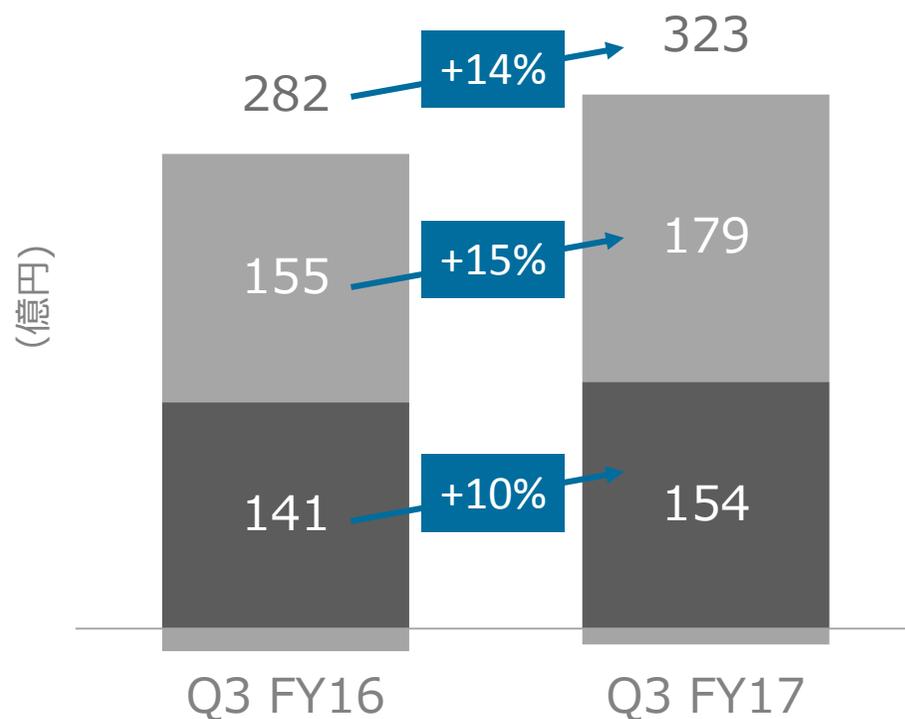
売上収益

■ ライフケア ■ 情報・通信



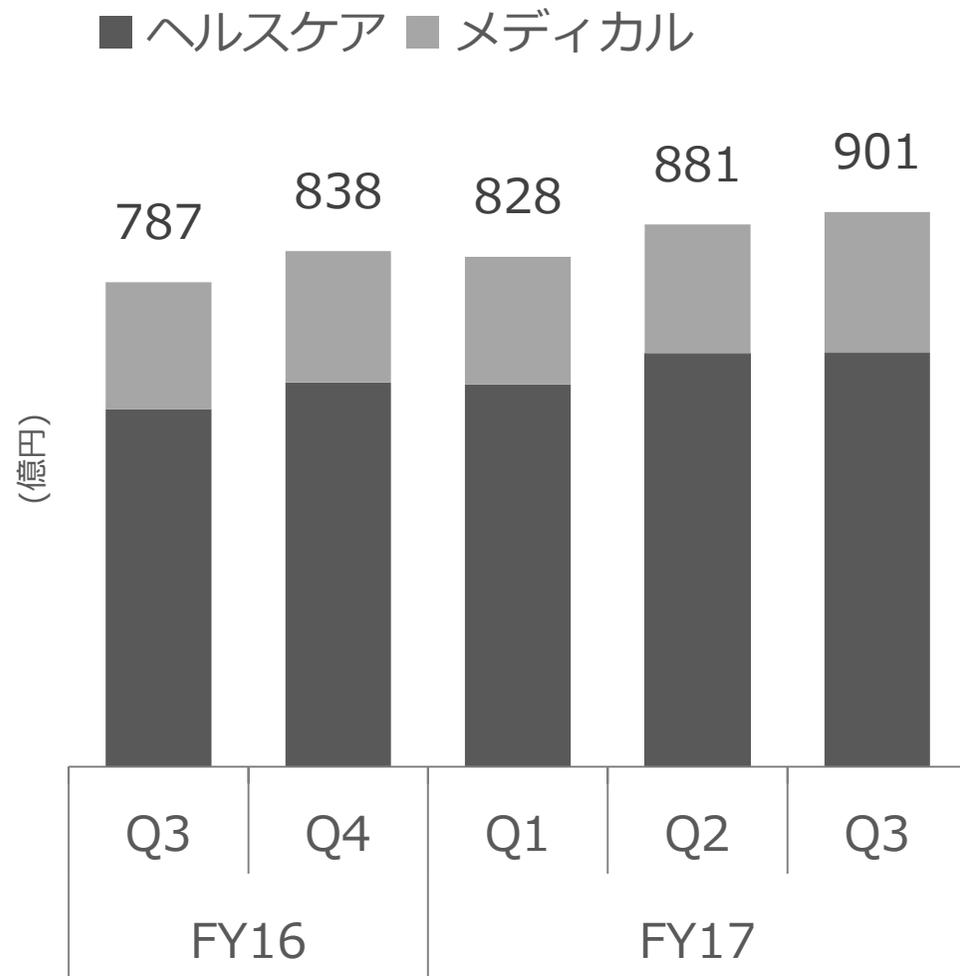
[参考]通常の営業活動からの利益

■ ライフケア ■ 情報・通信

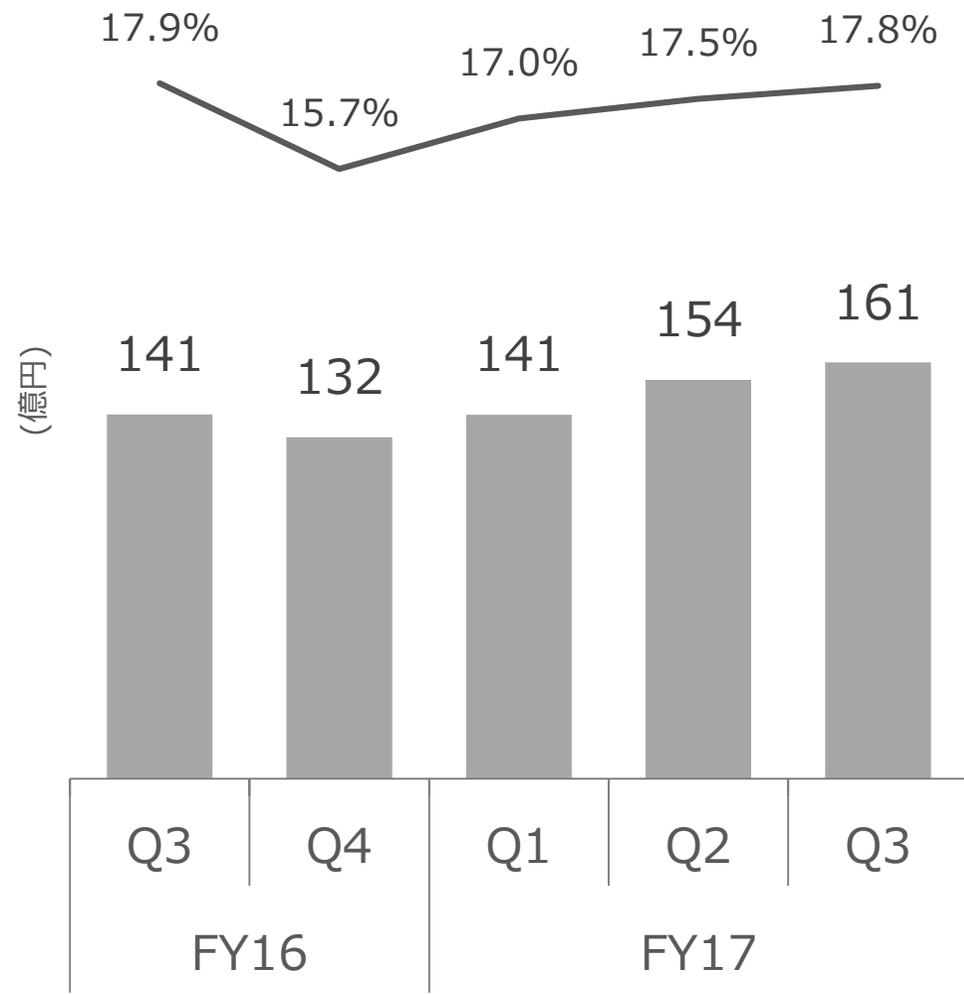


事業別業績：ライフケア

売上収益

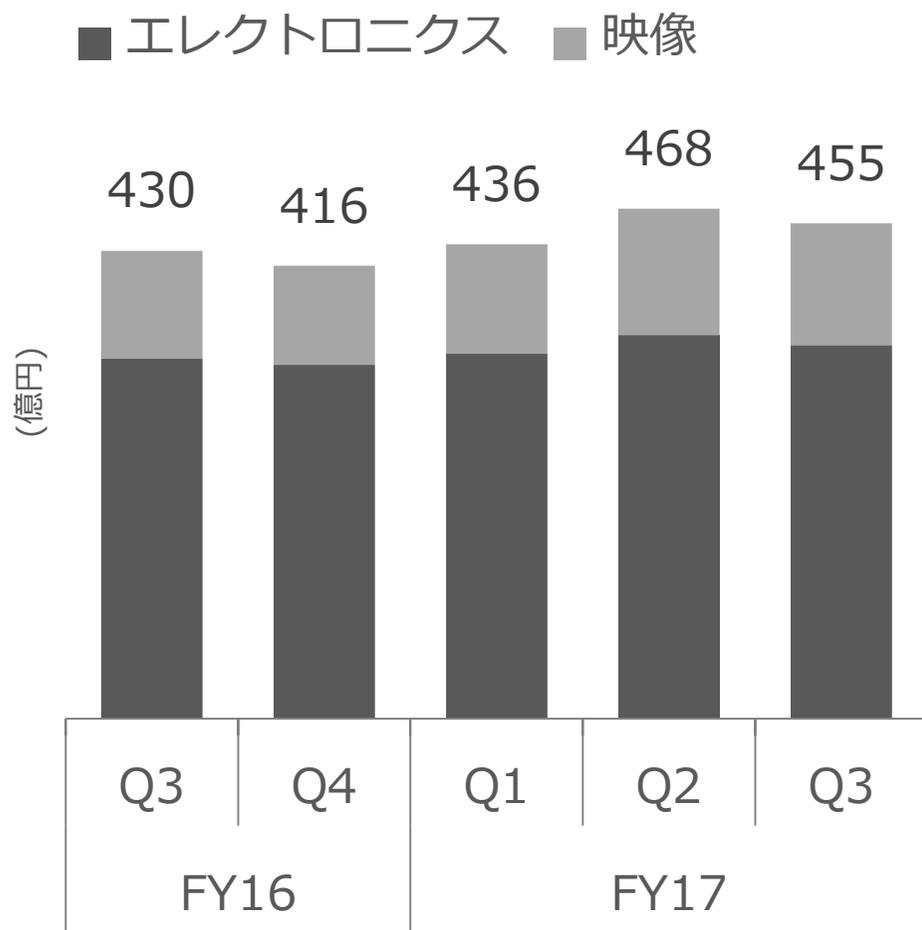


[参考]通常の営業活動からの利益

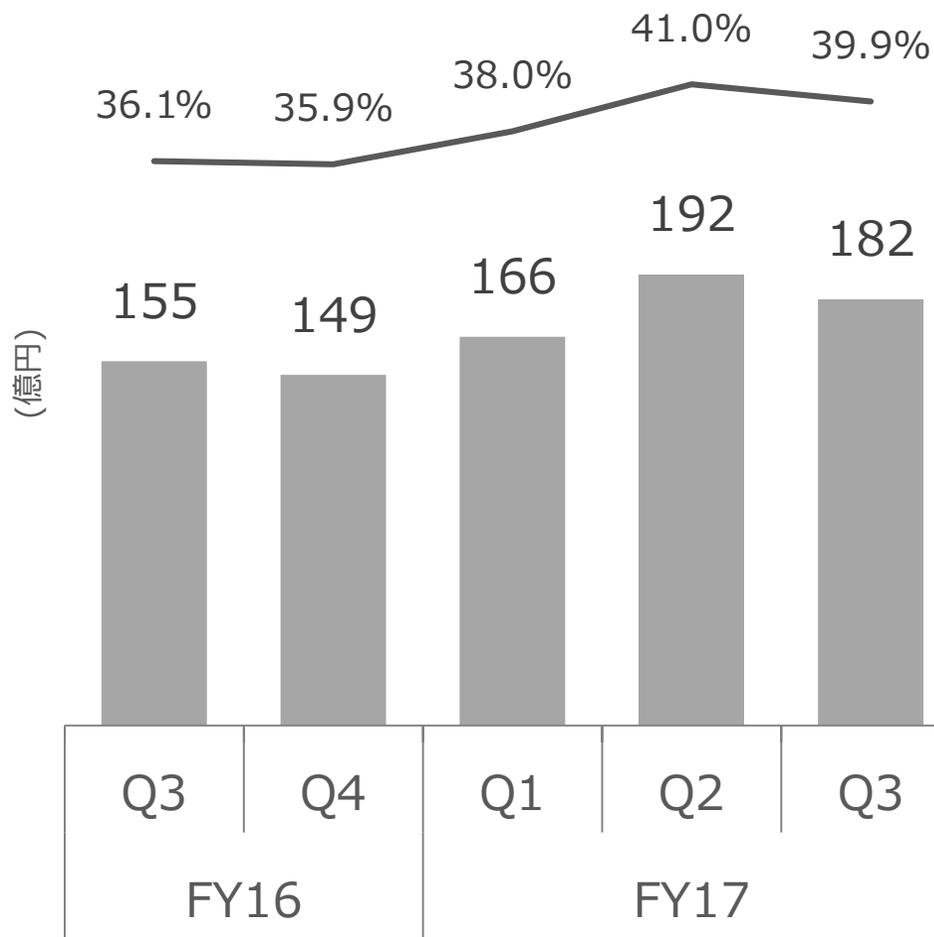


事業別業績：情報・通信

売上収益



[参考]通常の営業活動からの利益



特殊要因

「通常の営業活動からの利益」への調整項目

(億円)	Q3 FY16	Q3 FY17	前期比
税引前四半期利益	325	347	+22
調整項目合計	43	15	-28
為替差損益	38	3	-35
その他の損益	3	12	+9
金融収益ほか	2	0	-2
[参考]通常の営業活動からの利益	282	332	+50

為替変動により、為替差益が35億円減少

特許に関する訴訟和解金等により9億円増加

貸借対照表

(億円)	Q2 FY17	Q3 FY17	増減
非流動資産	2,139	2,196	+57
流動資産	4,485	4,365	-120
資本	5,445	5,400	-45
非流動負債	179	166	-13
流動負債	999	993	-5
合計	6,623	6,560	-63

キャッシュフロー計算書

(億円)	Q3 FY16	Q3 FY17	増減
営業活動 によるCF	232	315	+83
投資活動 によるCF	-189	3	+192
財務活動 によるCF	-115	-367	-252
現金及び 現金同等物 期末残高	2,732	2,286	-446

C2Tや3Mなどの買収があった前年同期と比べ投資活動に係る支出が減少

前年同期はなかった自社株買いの実施により財務活動に係る支出が増加

1. 決算概要

2. 情報・通信事業概況 [執行役COO/CTO 池田 英一郎]

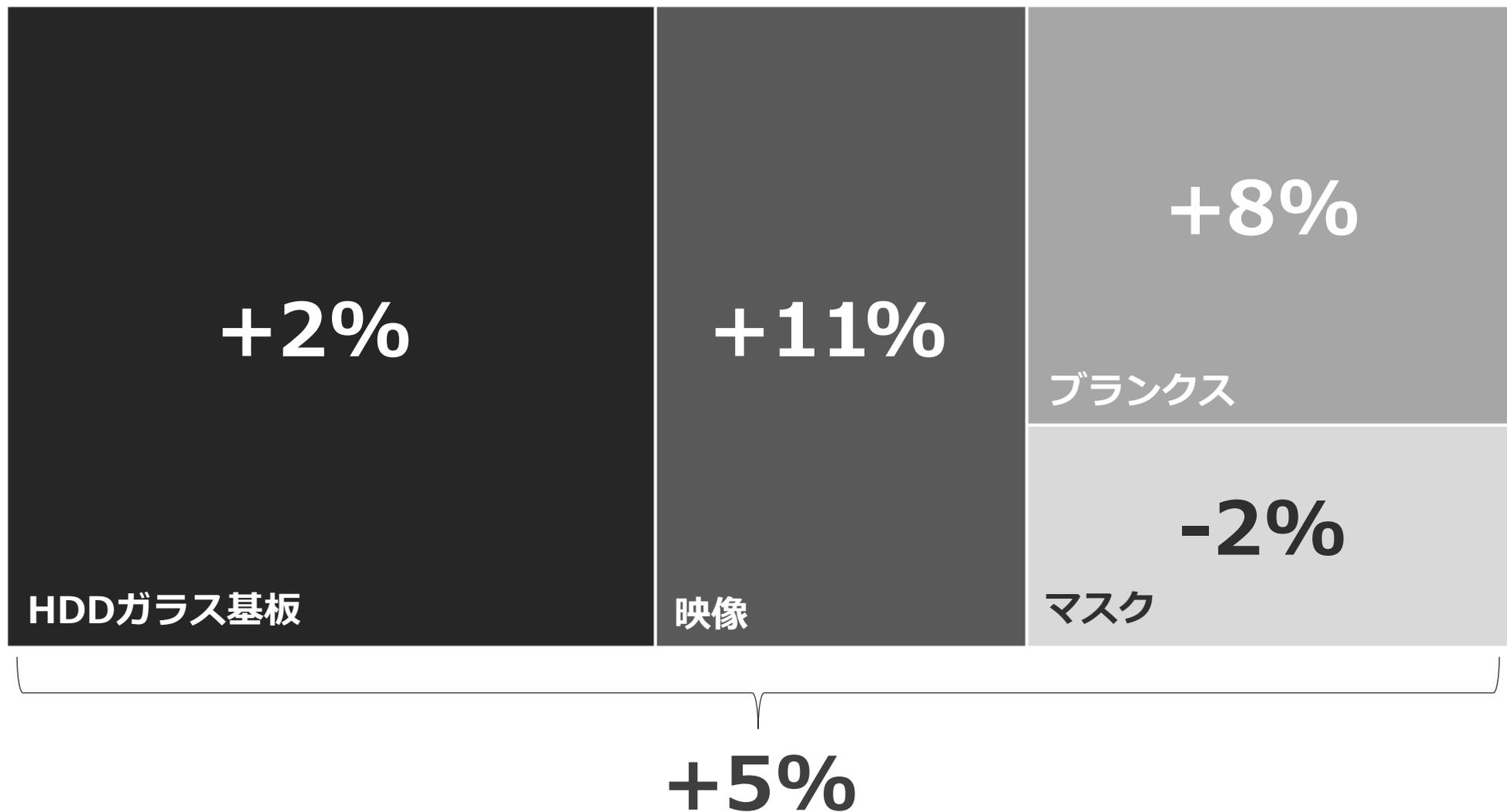
3. ライフケア事業概況

4. 今後の見通し

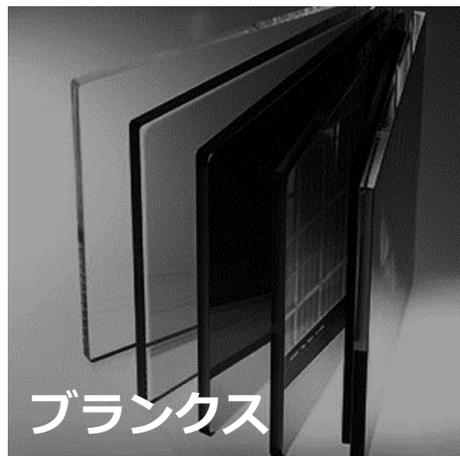
5. 質疑応答

情報・通信事業概況

為替影響を除く売上増減率



製品別概況



足元

高精度品、EUV製品が売上成長を牽引

今後

EUV製品の開発推進、需要増に対する体制構築



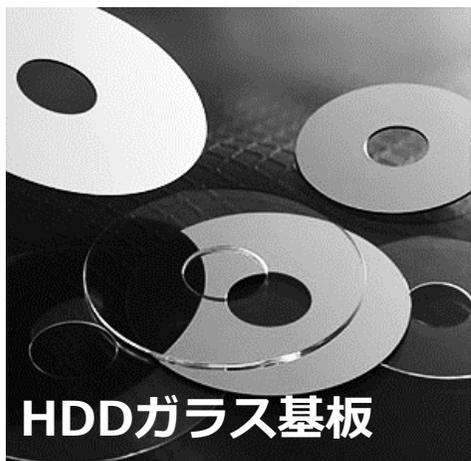
足元

顧客の内製化や在庫調整により売上は横ばい

今後

強みである高精度品+中国市場開拓を強化

製品別概況



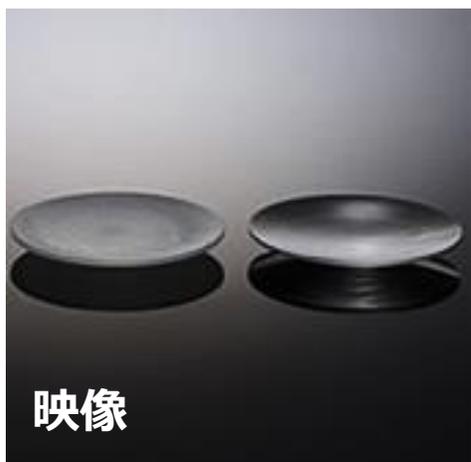
足元

3.5inchが2.5inchの減少を補完し増収

今後

2.5inch : NAND不足解消等により減少幅増大

3.5inch : ニアライン用途が来下期以降存在感



足元

デジカメ需要が堅調

監視カメラ向けが引き続き好調

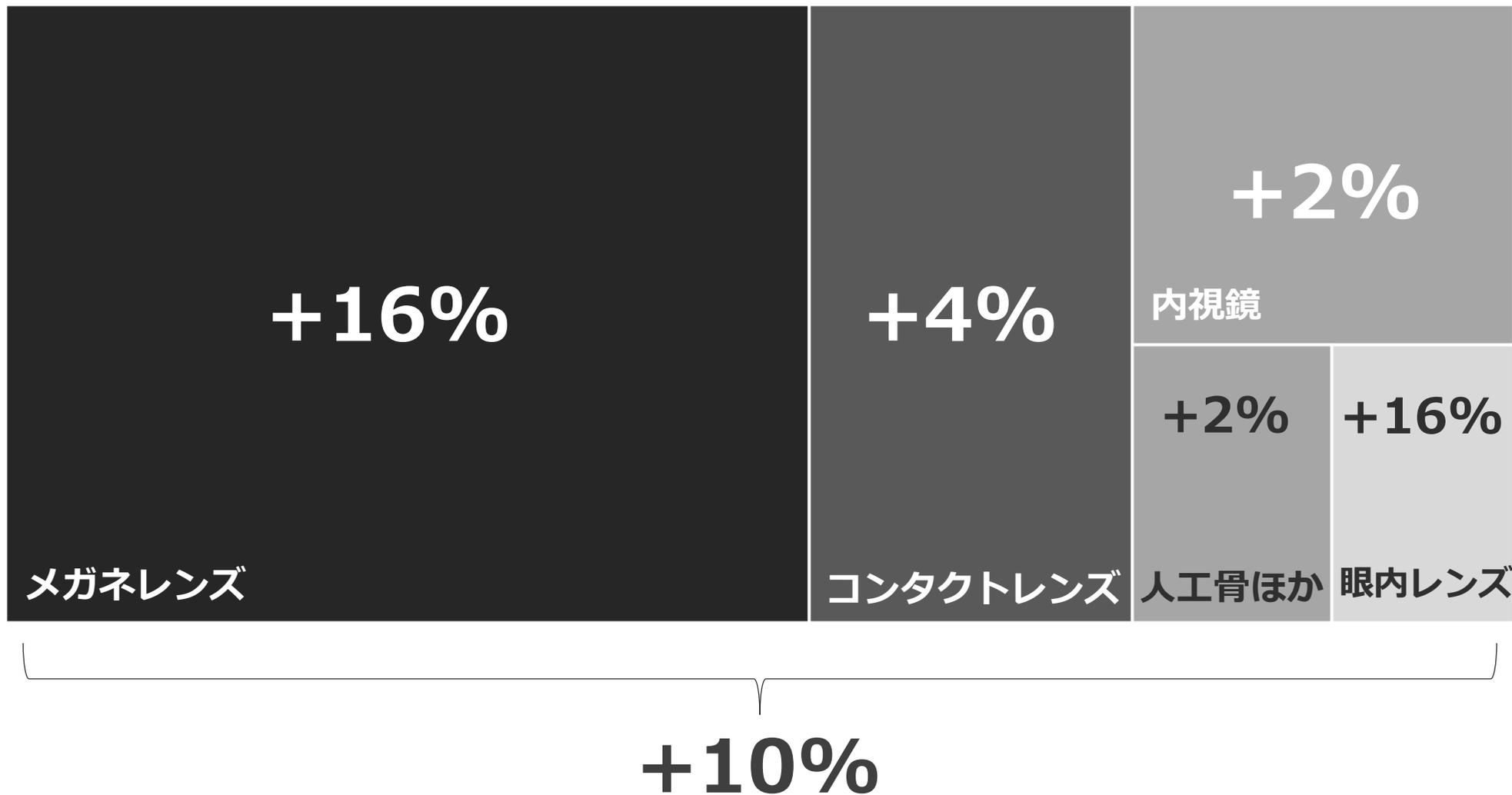
今後

監視カメラ/車載カメラ用途の拡大を図る

1. 決算概要
2. 情報・通信事業概況
- 3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
4. 今後の見通し
5. 質疑応答

ライフケア事業概況

為替影響を除く売上増減率



製品別概況



足元

M&A効果と米州での販売好調により、欧州のマイナスをカバー

今後

買収先とのシナジー推進



足元

既存店売上UP+新規出店により堅調
高機能商品の売上比率が微増、客単価が上昇
店舗数 281店 (QoQ +1店舗)

今後

引き続き年間15店舗前後出店

製品別概況



足元

主力製品が好調で2ケタ成長継続
タイ新工場の稼働率が徐々に向上

今後

海外攻勢をいっそう強め、売上倍増を目指す
(FY16⇒FY20)



足元

欧米が苦戦したものの、APACが好調
収益性が改善

今後

独自性ある製品展開+新興地域開拓を図る

1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 今後の見通し [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

2018年3月期 通期予測

FY17 Q4 予測

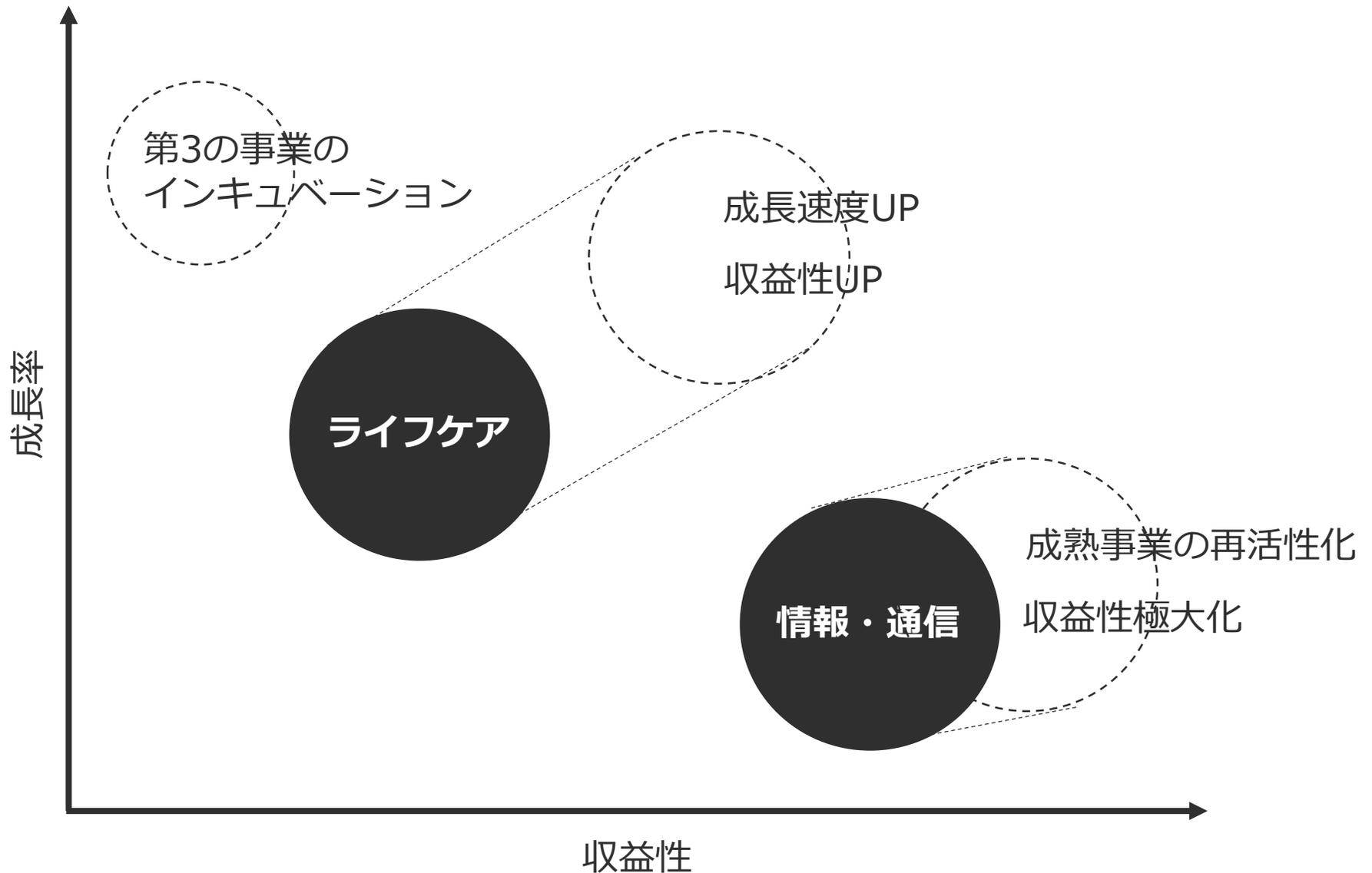
(億円)	Q4 FY16	Q4 FY17	増減	増減率
売上収益	1,263	1,353	+90	+7%
税引前四半期利益	244	299	+55	+23%
四半期純利益	190	243	+53	+28%

FY17 通期予測

(億円)	FY16	FY17	増減	増減率
売上収益	4,789	5,350	+561	+12%
税引前利益	1,108	1,280	+172	+16%
当期利益	868	1,040	+172	+20%

【為替前提】 USD=¥110 EUR=¥130

今後の注力ポイント



1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 今後の展望
- 5. 質疑応答**

本資料の表記について

- ✓ 2017年4月～2018年3月の会計期間を2018年3月期もしくはFY17と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q2, Q3, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算補足資料をご覧ください。
<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

免責事項

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。